

1. 「愛宕・築地・光岸地地区復興まちづくりの会」(10月3日開催)における意見

■皆さんからのご意見・ご提案

検討の進め方について	・愛宕・築地・光岸地地区は広いので、もっと大人数で検討した方が色々な意見が出てよい。
復興まちづくりについて	・住宅地の造成を考える前に、湾内に防波堤をつくることを考えた方がいいのではないか。

■主な意見交換の概要

防潮堤等について	Q : 防潮堤は今の堤防の内側に造ると聞いたが。	→	A : 堤防の嵩上げにも用地が必要になります。臨港線が通っていた所が県有地なのでその部分を使うことになると思います。
	Q : 津軽石の水門に波がぶつかって被害が大きくなったという話を聞いたがこれについての市の見解は。	→	A : 水門の上の監視カメラの映像によれば、津波が水門に到達する前に、赤前や法の脇から浸水が始まっていたようです。
高台移転や嵩上げ事業について	Q : 高台移転の場合、元々居た土地と移転先の土地を交換することはしないのか。	→	A : 現行の制度では、移転先は賃貸することになっておりますので、現時点では交換は考えていません。
まちづくりの手段・方法について	Q : 可住地から外に出て行く人への支援はあるのか。	→	A : 現行制度では支援はありません。
既存の土地、建物について	Q : 非可住地に建築はできるが住宅は建てられないというのはどういうことか。	→	A : 津波の浸水の危険があることから住宅を建てることはできませんが、漁業の作業場や工場、店舗などの事業系の建物は建てるができます。
	Q : 愛宕地区周辺の土地は測量などがきちんと終わっているのか。	→	A : 国土調査を実施していないので市としては測量していません。
	Q : 構造規制等の場所ですでに建てている方は、自己負担で規制に合わせて造り直さなければならないのか。	→	A : 現在の建物に規制がかかるものではなく、次に建替えるときに、構造強化等をしていただくことになります。
道路等の整備の予定について	Q : 光岸地の道路を拡幅するという話があったが、今はどうなったのか。	→	A : 予定は変わっていませんが、県は市の復興パターンが決まるまで待つという方針であり、3月以降に検討を始める予定です。

2. 「地区復興まちづくり便り」に関する意見

- (1) 「地区復興まちづくり便り」でお知らせしているように、現在各地区で「地区復興まちづくりの会」が開催され、今後、地区別の具体的な検討に入ってまいります。そのことについて、あなたの考えをお書きください。

向いても、向いても皮ばかりの金太郎飴と同じ。こちらは、トロール、イカ釣り、突棒、鮪船を
経営して色々と修羅場を生き抜いてきた。おか人を見ると物足りない。サギにあうのもおか人、
バカになるのもおか人、ボケるのも陸人、町の再生の前に偽の仮設に入っている虚偽の人間を排
除すべし。世間の評判なり。馬の耳に念仏にならぬようにした方がいい。地検特捜部も内定して
いるようだ。子供の使いでなし！

(60 歳代 男性)

住宅、店舗、再建は無理と、やむをえず盛岡市に住居を決めた。今後の支援金を基に建築購入予
定なので加算支援金はどうなっているのか？

(70 歳代 男性)

- (2) 地区の復興まちづくりに関連して、あなたのお考えをお書きください。

以前より、道路は広く 2 本必要。愛宕築地は地主さんが少ないので、協力して頂きアパート、店
舗等作ってほしいです。水道ポンプ室も移動、歩道橋も利用できるようにスロープをゆるくして
ほしいです。

(70 歳代 男性)

河川堤防を完備すれば安心して住む事が出来る。赤前より浄土が浜の入口日立浜迄 20m の高さ、
巾広く自動車道にすれば交通渋滞も緩和すると思います。退くより進む事が良いと思います。

(男性)

3. 「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査（7月実施）」の自由記入より抜粋

大分類	中分類	意見
防潮堤等の施設について	防潮堤	防波堤を高くし、築地地区を盛り土する。
		頑強で高さのある防潮堤を建設して欲しい。防潮堤には強化ガラスの窓を造り、防潮堤より海側の状況がわかるようにして欲しい。
		被害のあった地区だけに防潮堤を作るのではなく、防潮堤で波を逃がした先の被害も想定して防潮堤を作って欲しい。
		この津波を科学的に検証しなければならない。
	河川	閉伊川上流に津波を受け流すようにするべき。源流まで押し上げるようなきもちで取り組む。
	国道等	近内～山口～宮古病院を通る道路の早期着工をお願いしたい。
		国道 45 号以外の道路の整備。国道 45 号が通行止めになると、どうにもならなくなる。
	避難路	今困っているのは、道路がないこと。周りが崖だらけなので、夜間や避難するときが危険。
	公共交通	今ある JR をもっと活用して過疎化を防ぐべき。
	公共施設	愛宕小学校が来年廃校になるそうですが、公共施設など市民のためになるような場にしてほしい。
信号、防災無線のスピーカー、郵便ポスト、公衆電話などを復旧してほしい。		
一人暮らしの後期高齢者の公的収容施設を、順番待ちなく入所できるように望みます。		
公営住宅	公営住宅の整備計画を早急に進めて、具体的な内容を詰めてもらいたい。	
	持ち家だった人の場合、年金生活だった方は新しく建てるができないと思います。市や県で建てるとしても安価に住めるようにしないと生活がなり立たない。	
復興まちづくりについて	将来像	市民が明るく暮らせる土地にしなければならない。自分で出来ることをやってから公的機関に頼るべき。
		年老いても生き生きと暮らせる町に。
		時間がかかっても災害に強い宮古市を作るべき。
	漁港について	宮古は漁業と観光の町である。しかし、施設は海岸、住居は高台では成り立たなくなと思う。漁業と観光の活性化が成り立つような防災等を考えて欲しい。
		漁業がダメになると他の産業もだめになる。船や漁具の補助・漁港の早急な再建と岸壁のかさ上げ等が必要だと思う。
	情報提供	地域のコミュニケーションが大切だと思います。同じ地域やその他に誰が住んでいるのかの把握が必要だと思う。
	復興パターンについて	高台に移る場所、高層の建物でカバーする場所、街として機能する場所（公的機関を含む）を考えた街づくりが必要と思います。
		愛宕小は廃校になるのでこの土地を利用して住宅を考えて下さい。
		学校跡地、警察署跡地をみんなが住めるようにして欲しい。
		町内の世帯が減って町内を動かす上で活動が狭くなります。減った上でどう動かすか、そのやり方の指導を頂ければその地域にもやる気がでます。
防災対策	緊急時の逃げ場として、高台と沿岸との間の何箇所かに高い頑丈な円形の建物があればいいと思う。	
	通信の途絶を防ぐ工夫。燃料、食料 3～5 日分の備蓄。役所、病院、消防、警察も被災すると仮定しての対策。初動体制の再検討。	
事業手法について	高台移転	高台に町を造るという構想がありますが、簡単には造れないと思います。生活するためには衣食住があればすむということではないからです。
	面的嵩上げ	田老、高浜、金浜、鉾ヶ崎地区は土を 10 m 位いれないと安心して住めないのでは。
	区画整理	住宅の建設地や区画整理を早くきめてほしい。2 年間建設が出来ないと大変困る。
	共同住宅	公営住宅の建設が無理なのであれば、民間の建設したものを市が借上げるなどできないか。

大分類	中分類	意見
事業手法について	個別再建	出来れば海から離れた所に住みたいが、金銭的に無理。いくら危なくても前に住んでいた場所に家を直して住むしかない。
		生きている間にこれだけの津波に会うことは2度と無い。浸水地域であろうが住みたい人は住めるようにしたほうが良い。
浸水区域内の土地・建物について	土地の利用	漁業が立ち直っても、他の企業がなくなった場合は、自衛隊などに使ってもらってもいいかもとも考えました。
		海沿いには水産加工工場や製造工場などのエリアとして配し、非常時にはいち早く避難。商業地・住宅地は浸水エリアを考慮して配し、安全を優先。
		外敵を閉ざさず、この機に大手チェーン店（衣・食・住）を進出させた方が良い。宮古市にお金を落とさせなきゃダメだ！釜石・大船渡みたいな町になってしまう。
	売却	災害前に住んでいた土地がどうなるのか。出来れば「国・県・市」で買い取って欲しい。もしくは代替地が用意出来るのでしょうか。
	権利	被災した土地の代替地を提供していただきたいです。